

平成26年度 大阪商業大学高等学校 学校評価

1. めざす学校像

- (1)中堅私学として選択される学校、安定した入学生徒数を確保できる学校
  - 学習への取り組みを強め、クラブ活動等と両立させる（文武両道を目指す）
  - 各コースコンセプトを広く周知してもらう取り組み、女子生徒を惹きつける学校作り
- (2)学校生活の充実
  - 各コースコンセプトに沿って、充実したカリキュラムと授業展開・生徒の力を引き出す進路指導、生徒の意欲と人間性を育む課外活動の充実等、生徒・保護者の満足度を更に高める
  - 施設、設備、環境整備…女子のクラブ活動育成のための設備、快適で清潔な学習環境づくりを年次計画で進めていく
- (3)保護者との連携を強め、共に協力して子どもを育てる『協育』の実践

2. 中間的目標

□学習指導構想

- (1)学習活動の意識付けと家庭学習の習慣づけ
  - 授業を最優先に取り組む姿勢の育成と、授業内容の充実を図り中途退学者の減少を目指す
  - 家庭学習の定着化の取り組みを強化する
  - 外部講師による授業を、有効に進学実績に繋がるようにする
  - 成績・教育活動等のデータをシステム管理することで、成績処理の公正さと有効利用を目指す
- (2)不登校など生徒への指導
  - 不登校生徒に対する授業確保と学力保障の取組みを再構築する
  - 特別支援教育の取組

□生活指導構想

- 1)「建学の理念」の柱「思いやりと礼節」を持った、人として立派な人物養成を目指す
  - ぶれない、生徒の心に響く指導を根気強く行う
  - 基本的生活習慣の確立
  - 社会的マナーを遵守する姿勢の向上
  - 保護者・生徒との面談と意思疎通の更なる拡大
- (2)自治活動の更なる活性化。あいさつ運動の推進 地域活動との連携

□進路指導構想

- (1)系列大学を含めての連携
  - 系列大学との高大連携の取組を強化する（系列大学の魅力を生徒に浸透させる）
  - 大阪商業大学附属幼稚園との連携を強化する
- (2)センター試験にチャレンジする生徒を増やし、その指導を強化することで、進路指導力を高める
  - 安易な進路選択を避け、自分の目標に向かって行く意欲と学力を育む
- (3)学習指導と進路意識の高揚（総合の時間の利用）

□入試・渉外構想

- (1)基盤とする東大阪市・八尾市・大阪市・柏原市・生駒市・奈良市の中学校から、安定した入学生徒数を確保する
- (2)入試広報の効果アップを検討する
- (3)学校および各コースのコンセプトの周知を図る
- (4)特化したコース<文理進学・スポーツ・デザイン>の浸透を図る
- (5)中学生・保護者へのアピールとして、オープンスクール・出前授業の充実と改善
- (6)重点地域への広報活動（地元を含め、重点地域へのピンポイント広報）
- (7)対中学校・対塾の渉外活動の連携を強化し、バランスを取りながら渉外活動の成果を図る

□教員の研究・研修構想

- (1)教員研修を年3回以上の実施・学校評価と連動して研究・公開授業の実施
- (2)教育内容の充実（シラバスの完全実施）生徒アンケート・公開授業実施を通して、授業の充実・教育力のアップを図る
- (3)学校主催研修会<今年度は実践校訪問を中心とした内容>を実施する 相手校との交流から、本校の問題点・課題を把握し、今後、本校独自の取り組み実践を作り出す
- (4)外部研修会への積極的な参加
- (5)危機管理教育の徹底

□その他

- (1)地域との交流の更なる発展、あいさつ運動（地域清掃、学校評価への参加）、学校行事の活用
- (2)国際感覚育成
  - 修学旅行の検証・見直し
- (3)学校評価の取組

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析[平成26年11月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p><b>□学校生活全般</b></p> <p>○「学校の雰囲気がよい」 肯定的回答(生徒 男 73% 女 65%, 保護者 90%, 教員 58%)</p> <p>○「先生は教育熱心だ」 肯定的回答(生徒 男 65% 女 55%, 保護者 85%, 教員 65%)</p> <p>授業を大切に、ベル着など、授業中のモラル向上を具体的に掲げた方針に伴い、教員側の生徒に対する要求度が高まり、教員アンケートの結果は、きびしいものになっている。</p>	<p>学校全体の雰囲気や教育の熱心さについては、保護者の8～9割・教員の6割程、生徒も7割程が良好であると感じている。ただ女子生徒の数値が男子生徒よりも低い。</p> <p>保護者の意見では、学級担任への信頼が厚く、感謝を述べられている意見が多数目につく。その反面、一部授業によっては改善を求められているものもあり、大きな課題である。</p>
<p><b>□学習に関して</b></p> <p>○「先生の授業はわかりやすい」 肯定的回答(生徒 男 66% 女 54%, 保護者 63%, 教員 50%)</p> <p>○「意欲的に学習に取り組んでいる」 肯定的回答(生徒 男 70% 女 58%, 保護者 65%, 教員 35%)</p> <p>教員側としては創意工夫を凝らし、「わかりやすく」を目標に日々活動をしているが、実際は十分な理解につながっていない可能性がうかがえる。生徒の反応など研究を重ね、日々改善していく必要があると思っている教員が多くいる。</p>	<p>6割程度の生徒が授業に対して肯定的にとらえているものの、教員の教育力の差が指摘されている。保護者からも否定的な回答が3割ほどあり、大きな問題である。授業こそが学校生活の根幹であり、この結果を教員団は重く受け止めなければならない。</p> <p>また教員の意見として、生徒の取り組みが意欲的でないと感じているものが多かった。よりわかりやすい授業を実践し、意欲的な生徒を増やす授業を探究することが求められる。</p>
<p><b>□進路指導に関して</b></p> <p>○「進路の情報は適切に提供されている」 肯定的回答(生徒 男 70% 女 65%, 保護者 75%, 教員 53%)</p> <p>生徒・保護者は満足度が高いが、提供する側の教員の数値が低い。さらに充実した情報を提供する必要を表しているのか、検証する必要がある。</p>	<p>進路指導については多くの生徒が肯定的にとらえている。ただ学年が上がるごとに肯定的な回答も減少している。各プログラムのチェックや見直しも必要である。ただ、生徒からの意見が全く見られなかったのも、進路に対する意識が低い可能性があることには注意したい。教員側では、幅広い進路指導が求められるので、その点十分にカバーできていないのでは、という意見もある</p>
<p><b>□生活指導</b></p> <p>○「学校の規則は妥当か」 肯定的回答(生徒 男 65% 女 48%, 保護者 85%, 教員 67%)</p> <p>○「学校の規則を守っているか」 肯定的回答(生徒 男 58% 女 43%, 保護者 91%, 教員 40%)</p> <p>○「生活指導について納得度」 肯定的回答(生徒 男 60% 女 43%, 保護者 85%, 教員 50%)</p> <p>生徒の意識と大人（教員・保護者）の意識の差が大きい。特に女子生徒の回答は否定的なものが多く、頭ごなしの指導ではなく、時間をかけて納得させていくことで、ルールについて学ばせることが必要である。</p>	<p>学校の規則は妥当であると思っているが、守れていない生徒が多いということが表れている。保護者にも規則については一定の理解を示していただいている結果となっており、さらに厳しくしてほしいという意見もある。</p> <p>逆に生徒側では、否定的な意見が多く、特に女子は規則の妥当性から納得していない生徒が約半数いる。規則を緩めてほしいという意見もあり、遵守する気持ちも低い様子が見られた。また規則の厳格化を求めている生徒も一方おり、ルールを守れていない生徒への指導が徹底できていない状況から教員に対する信頼感につながる部分にも影響を与えている。</p>
<p><b>□行事・クラブ</b></p> <p>○「学校行事は楽しく充実している」 肯定的回答(生徒 男 75% 女 68%, 保護者 85%, 教員 72%)</p> <p>○「部活動は活発で充実している」 肯定的回答(生徒 男 70% 女 65%, 保護者 80%, 教員 70%)</p> <p>行事ごと、課外活動について、生徒・保護者とも極端には高くはないが、肯定的な回答が多い。ただし、女子が活動できる部活動にまだ制限があるため、女子の数値は伸び悩んでいる。</p>	<p>行事・クラブについては、生徒・保護者・教員ともに肯定的な回答が多いと判断できる。クラブについては、保護者からの期待度も非常に高い一方、厳しい意見を持たれている保護者もいる。生徒の意見として、環境面での不満の意見もあり、その点を改善すると、もう少し満足度があがると思われる。</p>
<p><b>□設備について</b></p> <p>○「校内の施設・設備はよく整備されている」 肯定的回答(生徒 男 50% 女 48%, 保護者 83%, 教員 35%)</p> <p>保護者の満足度は高いものの、日々学校で活動している生徒・教員の肯定的回答は低い。新しいものだけでなく、現存するものの利用方法を含め、検討していく必要がある。</p>	<p>施設面については、否定的な回答が目立つ。特に、生徒と教員の両者で高い。クラブ関連施設、食堂、トイレ、教室とあらゆる面で不満が出ている。埃っぽさ、売店の要望なども指摘されている。</p>
<p><b>□その他</b></p> <p>○「あいさつの溢れる学校である」 肯定的回答(生徒 男 55% 女 48%, 保護者 80%, 教員 53%)</p> <p>○「入学して（させて）よかった」 肯定的回答(生徒 男 73% 女 68%, 保護者 80%, 教員 70%)</p> <p>挨拶については、以前の方がよく挨拶が行われていたと思われるので、教員の肯定的回答が低い。教員からも積極的にあいさつ運動を行っていく必要性が感じられる。「入学させてよかった」については過半数を超えているから良しではなく、常に80%を超えられるような成果が得られるように工夫をしていく必要がある。</p>	<p>「あいさつに溢れる学校」については5割を切った学年もあり、挨拶やマナーができていない生徒や教員に対する指摘が多く見られる。特に教員の言葉使いや挨拶に対する不満の声があることは、教員間で周知しなければならない。</p> <p>また「入学して（させて）よかった」については、3割近くが否定的回答をしている事実を重視し、改善に努めなければならない。</p>

3. 本年度の取組内容及び自己評価

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
□ 学習指導 構想	<p>(1)学習活動の意識付けと家庭学習の習慣づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業を最優先に取り組む姿勢の育成と、授業内容の充実を図り中途退学者の減少を目指す</li> <li>○家庭学習の定着化の取り組みを強化する</li> <li>○外部講師による授業を、有効に進学実績に繋がるようにする</li> <li>○成績・教育活動等のデータをシステム管理することで、成績処理の公正さと有効利用を目指す</li> </ul> <p>(2)不登校など生徒への指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○不登校生徒に対する授業確保と学力保障の取組を再構築する</li> <li>○特別支援教育の取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習推進の取り組み</li> <li>・ベル着の徹底</li> <li>・特化授業・資格取得授業</li> <li>・授業・満足度アンケートの実施と検証</li> <li>・他大学対策、文理進学コースで取組</li> <li>・授業確保と学力保障</li> <li>・教務システム導入</li> <li>・不登校規定の見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各検定試験合格数について目標設定。</li> <li>英検準2級→受験者数の60%合格</li> <li>全商簿記検定2級→受験者数の50%合格</li> <li>漢検2級→受験者数の50%合格</li> <li>情報2級→受験者数の20%合格</li> <li>・授業公開日の設定</li> <li>・ベル着の徹底</li> <li>・生徒スケジュール帳の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英検準2級合格→合格53名&lt;受検409名&gt;</li> <li>※参考 2級合格→合格11名&lt;受検82名&gt;</li> <li>・簿記検定2級→合格41名</li> <li>・漢検2級合格→合格1名&lt;受検26名&gt;</li> <li>※参考 準2級合格→合格22名</li> <li>・情報2級合格→合格9名&lt;受検数報告なし&gt;</li> </ul> <p>上記のように結果は、目標値よりかなり低い状態であるが、合格件数は昨年度実績よりも上昇している。</p> <p>授業公開期間については有効利用がされていない。実施方法などについて再考を要する。</p> <p>教員側の意識はおおよそ改善できたと思われるが、生徒の意識の更なる向上が望まれる。(授業中のモラル向上も含めて)</p> <p>各自のスケジュールを管理させるためのスケジュール手帳を作成作業を行う。(配布はH27年度より)</p>
□ 生活指導 構想	<p>(1)「建学の理念」の柱「思いやりと礼節」を持った、人として立派な人物養成を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ぶれない、生徒の心に響く指導を根気強く行う</li> <li>○基本的な生活習慣の確立</li> <li>○社会的マナーを遵守する姿勢の向上</li> <li>○保護者・生徒との面談と意思疎通の更なる拡大</li> </ul> <p>(2)自治活動の更なる活性化。あいさつ運動の推進 地域活動との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭訪問</li> <li>・保護者との連携を強め、生徒の人権を尊重しながらの指導</li> <li>・臨床心理士による対応</li> <li>・カウンセリング室など特別教室の整備</li> <li>・保護者との面談の強化</li> </ul> <p>生徒の自主活動の確立と地域とのつながり</p> <p>清掃活動</p> <p>あいさつ運動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・懇談会を年最低2回以上実施</li> <li>・カウンセリングの充実</li> <li>・学校全体の年間遅刻数を6000以下にする</li> <li>・朝の学校周辺の清掃活動の定着</li> </ul>	<p>実施できている</p> <p>家庭訪問は必要に応じて実施している</p> <p>カウンセリングが実施回数229回&lt;昨年258・一昨年252&gt;は、この3年間ほぼ同じ数値で推移している。これは、カウンセリングが本校で定着してきた結果と思われる</p> <p>年間遅刻数5911名&lt;昨年5442・一昨年6047&gt;2年連続で目標達成することができた。</p> <p>在籍生徒数は増加しているが、目標値を下げずに、さらに取り組みを進めたい。</p> <p>清掃活動3～4クラブが実施している</p> <p>地域より活動が評価されている</p>
□ 進路指導 構想	<p>(1)系列大学を含めた連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○系列大学との高大連携の取組を強化する(系列大学の魅力を生徒に浸透させる)</li> <li>○大阪商業大学附属幼稚園との連携を強化する</li> </ul> <p>(2)センター試験にチャレンジする生徒を増やし、その指導を強化することで、進路指導力を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○安易な進路選択を避け、自分の目標に向かって行く意欲と学力を育む</li> </ul> <p>(3)学習指導と進路意識の高揚(総合の時間の利用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路学習</li> <li>・進学実績</li> <li>・就職指導の強化</li> <li>・新たな高大連携の模索</li> <li>・提携校作り</li> <li>・総合学習の時間の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路決定率向上</li> <li>・国公立大学現役合格者の輩出</li> <li>・総合学習の企画提案</li> <li>・センター試験受験者について</li> </ul>	<p>最終進路決定率は92.9%。</p> <p>系列大学への進学数が向上した。(H26度より神戸芸術工科大学も系列校推薦入試実施)</p> <p>有名私立大学への合格数がほとんどなく、進路指導、学習指導に課題を残した。</p> <p>国公立大学2名合格(デザイン美術コース)</p> <p>大阪商業大学に97名、神戸芸工科大学に11名入学など、進学(大学・短大・専門学校)は87.6%</p> <p>計画に沿って、様々な分掌・コースが企画しているが、学年に指導を委ねている面もあり、改善が必要。</p> <p>センター試験利用者は今年度も12名に止まる。</p> <p>かなり低い数値であるが、引き続き啓発活動が必要である。</p>
□ 入試・ 渉外 構想	<p>(1)基盤とする東大阪市・八尾市・大阪市・柏原市・生駒市・奈良市の中学校から、安定した入学生徒数を確保する</p> <p>(2)入試広報の効果アップを検討する</p> <p>(3)学校および各コースのコンセプトの周知を図る</p> <p>(4)特化したコース&lt;文理進学・スポーツ・デザイン&gt;の浸透を図る</p> <p>(5)中学生・保護者へのアピールとして、オープンスクール・出前授業の充実と改善</p> <p>(6)重点地域への広報活動(地元を含め、重点地域へのピンポイント広報)</p> <p>(7)対中学校・対塾の渉外活動の連携を強化し、バランスを取りながら渉外活動の成果を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入試制度改革</li> <li>・オープンスクール、入試説明会企画</li> <li>・塾長説明会企画</li> <li>・相談ブースなどへの参加</li> <li>・渉外担当者との連携、情報交換</li> <li>・中学校美術教員との研究授業</li> <li>・出前授業</li> <li>・ホームページ改編</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3教科入試への変更</li> <li>・オープンスクール、入試説明会企画</li> <li>・ホームページ改編</li> <li>・出前授業</li> </ul>	<p>3教科に変更となるが、受験数は微減。原因分析はできていない。入学後のアンケート実施により分析を行う予定。</p> <p>&lt;オープンスクール&gt;</p> <p>第1回+第2回 生徒 556 保護者 439</p> <p>合計 995名(昨年675名)</p> <p>&lt;入試説明会&gt;</p> <p>第1回～第3回 837組(昨年788名)</p> <p>パンフレットとホームページを連動して複数年契約で作成する契約を行う。打合せ、制作作業を開始した(H27、5月に納品のスケジュールで)</p> <p>中学校への出前授業は7中学(昨年11中学)</p>

□ 教員 の 研 究 ・ 研 修 構 想	<p>(1)教員研修を年3回以上の実施・学校評価と連動して研究・公開授業の実施</p> <p>(2)教育内容の充実(シラバスの完全実施) 生徒アンケート・公開授業実施を通して、授業の充実・教育力のアップを図る</p> <p>(3)学校主催研修会&lt;今年度は実践校訪問を中心とした内容&gt;を実施する相手校との交流から、本校の問題点・課題を把握し、今後、本校独自の取り組み実践を作りだす</p> <p>(4)外部研修会への積極的な参加</p> <p>(5)危機管理教育の徹底</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業の実施</li> <li>・研究授業の実施</li> <li>・教員研修</li> <li>・外部研修会への積極的参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業の実施</li> <li>・教員研修</li> <li>・外部研修</li> </ul>	<p>期間を設定したが、有効な利用はされていない。今後、内容も含め、改善策をとる必要が急務である。</p> <p>H26年度は、外部の実践校訪問を行う 夏-神奈川 三浦学苑高校(1泊2日) 冬-静岡 常葉学園橘高校(1泊2日) それぞれ10名ずつの参加があり、実践校教員との交流も含め、有意義な研修となった。 予備校主催の教科研修、NHK話し方講座への参加など実績があった。</p>
□ そ の 他	<p>(1)地域との交流の更なる発展, あいさつ運動(地域清掃, 学校評価への参加), 学校行事の活用</p> <p>(2)国際感覚育成 ○修学旅行の検証・見直し</p> <p>(3)学校評価の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行事前事後学習の充実</li> <li>・学校評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行実施</li> </ul>	<p>H26年度 行き先をハワイと設定。準備を進め、12月に実施した。</p>